

感覚器・理学診療科

耳鼻咽喉・頭頸部外科

病棟 西病棟 10F

外来 外来診療棟A 4F 連絡先 022-717-7755 (外来) 022-717-7791 (病棟)

ホームページ <http://www.ori.med.tohoku.ac.jp/>



科長
香取 幸夫 教授

主な対象疾患

- 難聴 (成人・小児)・耳鳴り・めまい・中耳炎・顔面神経麻痺・側頭骨腫瘍
- 副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・花粉症・好酸球性副鼻腔炎・嗅覚障害・鼻副鼻腔がん
- 咽頭炎・喉頭炎・急性喉頭蓋炎・扁桃周囲膿瘍・口腔がん・咽頭がん・味覚障害
- 睡眠時無呼吸症候群・嚥下障害・音声障害・声帯麻痺・深頸部感染症・喉頭がん

診療内容

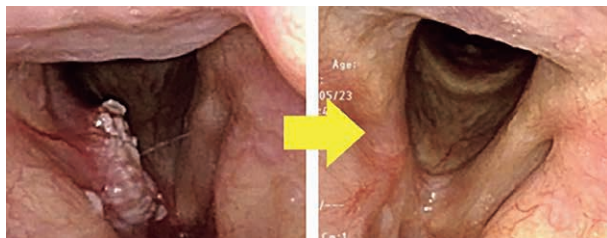
耳鼻咽喉・頭頸部外科では聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚、発声・構音や嚥下機能など多くの感覚器を扱い、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の疾患に対する高度先進医療を担っています。

耳科領域では、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、耳小骨先天異常、中耳腫瘍などの中耳疾患に対して、外耳道経由の低侵襲な内視鏡耳科手術を行っています。また、両側高度難聴には、人工内耳や残存聴力活用型人工内耳、人工中耳などの人工聴覚器埋込術と聴覚リハビリテーションを行っています。そのほか軟骨伝導補聴器も扱っています。先天性難聴や若年発症型両側性感音難聴などへは難聴遺伝子検査が可能です。

鼻科領域では、慢性副鼻腔炎、上顎嚢胞、鼻中隔彎曲症、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍、鼻涙管閉鎖症に対する内視鏡鼻副鼻腔手術を行っています。

咽頭、喉頭科領域では、嚥下障害への嚥下改善手術、誤嚥防止手術を、声帯ポリプや反回神経麻痺、声帯萎縮、機能性発声障害などの音声障害への音声改善手術やリハビリテーションを行っています。また喉頭癌、咽頭癌に対する経口的腫瘍切除術を施行しています。

頭頸部外科領域では、耳下腺腫瘍や顎下腺腫瘍、正中頸嚢胞、側頸嚢胞の手術を行っています。外耳癌、鼻副鼻腔癌、口腔癌、舌癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌などの頭頸部癌には、放射線科、腫瘍内科、脳神経外科、形成外科、歯科顎口腔外科とともに毎週カンサーボードで検討し、高度な頭蓋底手術のプランニングや放射線化学療法などの治療方針を決定しています。



音声を温存する、喉頭がんのレーザー手術



残存する聴力を温存する、人工内耳治療



頭頸部腫瘍センターの様子

診療体制

25名の耳鼻咽喉科専門医、2名の頭頸部がん専門医、10名の耳鼻咽喉科専門研修指導医が所属し、外来9診療室、病棟48床を運用し、月～金曜日に連日手術を行っています。

外来では月・水・金曜日に予約制の一般外来診療を行っており、疾患によってそれぞれ専門外来で再診します。専門外来は、頭頸部腫瘍センター(月～金曜日)、喉頭音声外来(火曜日)、ことばときこえ外来(水曜日)、難聴・神経耳科外来、中耳外来(木曜日)、嚥下外来(月・水・金曜日)を行っています。専門外来のいくつかでは、疾患が明らかな場合に直接新患予約も受けています。

得意分野

耳、鼻、咽頭、喉頭、頭蓋底外科各領域において、高解像度の内視鏡を用いた詳細な観察による診断や微細な手術治療を行っています。また摂食・嚥下リハビリセンターでの集学的診断・治療とリハビリテーションに力をいれています。増加傾向にある頭頸部癌においては、生命維持だけでなく感覚器障害を軽減するために、頭頸部腫瘍センターで検討し最善の治療をおこなうようにしています。重度の感音難聴や回復困難な伝音難聴に対して、最先端の人工聴覚器による聴覚機能の回復と言語聴覚士によるリハビリテーションを行っています。

ご紹介いただく際の留意事項

- 一般、専門外来ともに予約制です。ご紹介いただく場合には地域医療連携センターを介して外来予約をお申込みください。
 - 救急患者(急性感染症、上気道狭窄)さんについては積極的に応需しています。当院救急部を介してご相談ください。
 - 頭頸部がん、音声・嚥下、耳疾患を中心にセカンドオピニオン外来に対応しています。ご希望の患者さんには一般の診療とは別時間になりますので、そのむねを地域医療連携センターにお伝えください。
- 【その他】患者さんに分かり易い説明を行い、病診連携ならびに病院間連携を重視する治療を進めてまいります。